

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	62	学校名	市立岐阜商業高等学校
------	----	-----	------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	(1) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指す …望ましい勤労観や職業観、自己責任の観念やコミュニケーション能力、新しいビジネスの創造にかかわる資質、問題解決能力や創造的な学習態度の育成に向けた活動 (2) 地域との連携及び社会貢献等の活動 …地域連携、社会貢献活動、校外での販売実習、市民講座、生徒による出前授業、地域行事への参加 (3) 産官学民連携による協働的な活動 …地域産業の振興、商品開発や起業的な活動、地元企業等と連携した商品開発、外部講師招聘による地域産業振興活動
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	・生徒の個性に応じた教育の展開を図り、将来を展望した魅力ある学校づくりに努めます。 ・「自強不息」の校訓のもと、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努めます。
------------------	--

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか【G P】	・職業人として必要な倫理観や他者を思いやる心を身に付けた生徒 ・ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、考え表現できる生徒 ・基礎学力の定着を図るとともに、ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付け、地域の資源や特徴を理解し、グローバルな視点で異文化理解、異文化交流に取り組むことのできる生徒
	生徒をどう育てるか【C P】	・市岐商デパート、販売実習やインターンシップ等の体験学習などを通して、望ましい勤労観や職業観を育成するための教育課程を編成 ・身に付けた知識・技術・態度により自ら課題を設定し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成 ・目標に向かい、自ら励まし、継続して努力し続ける生徒に対するきめ細やかな粘り強い支援の実施
	どんな生徒を待っているか【A P】	・基本的な生活習慣や規範意識等が身に付いている生徒 ・商業の専門分野に関する興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組む生徒 ・他者を認め尊重し、自ら考え行動する人間力の向上を目指す生徒

学校の抱える課題	・生徒の多様な進路希望を実現するための教育課程の継続的な見直し ・交通ルールと交通マナーの遵守による交通事故防止とヘルメット着用の推進 ・進路選択に際して、進路意識の低下や進路先研究の不足が見られるため、生徒が主体的に進路実現ができるよう進路ガイダンス等の充実 ・本校の教育内容の実践を効果的に保護者や地域の方々に発信していく方策
----------	--

	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
教育指導の重点	学習指導	・授業規律の徹底を図るとともに、生徒が主体的に取り組むよう「わかる授業・楽しい授業」を追求し、基礎的・基本的な学力の確実な定着に努める。 ・全職員が生徒個々の実態を把握し、個に応じた具体的な到達目標を定め、生徒一人一人の個性を生かす指導を推進する。
	生徒指導	・さわやかな挨拶や清楚な身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、人間性豊かな生徒の育成を図り、他を思いやる心や進んで奉仕する心を育成する。 ・地域に愛され、品位のある市岐商生を育成する。
	進路指導	・自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を実現できる能力や態度を育成する。
	その他	・生徒一人一人の個性を生かし、潜在能力を開花させる。また、商業科目の指導を通じて、実社会で活躍できる人材を育成する。 ・生徒一人一人が倫理観やビジネスマナーを身に付け、地域貢献や外部連携の実践を通して豊かなコミュニケーション能力を育成する。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	異教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A, B, C, D	成果と課題 (成果は先頭に○、課題は先頭に▲)	総合評価 A, B, C, D
学習指導	・生徒の実態を踏まえ、授業規律を徹底し、毎時間の到達目標の明示	施策Ⅱ-8	・「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の教職員及び学習指導の項目評価 ・「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の生徒指導及び安全指導の項目評価 ・着用率の調査と分析	・学校評価アンケート結果(7月と12月の比較)において、「教職員」の項目では、保護者は全ての項目で肯定的評価が上昇した。一方、生徒の評価は教員の熱意、授業の丁寧さの面で減少した。 また、「学習指導」においては、保護者は全ての項目で肯定的評価が上昇した。一方、生徒の評価は外部連携の面で減少した。 ・生成A Iを活用した研究授業が実施された。 ・「市岐商デパート」で使用するキャッシュレス決済端末を増設し全店舗に導入された。	B	▲「教職員」の項目では、生徒の評価で減少が見られたことは、そのように感じられる場面がないように気付けなければならない。 ○学習指導においては総合的な探究の時間「市岐商デパート」と高度な資格取得に向けた取り組みの項目の評価が高く、生徒の達成感や満足感が大きかったことを示している。 ○生成A Iを活用した授業によって、生徒・教員ともにICT活用スキルの向上が図れた。 ○「市岐商デパート」における全店舗キャッシュレス端末導入により、教員研修や生徒への指導を通して活用スキルの向上が図れた。	B
	・生徒の実態や多様な進路に対応した教育課程の編成と日々の学習の積み重ねの重要性を認識させる指導の実践	施策Ⅱ-8					
	・生徒一人一人に具体的な目標を持たせ、ICT機器やタブレット端末を活用した創意工夫のある授業の展開	施策Ⅱ-9					
生徒指導	・TPOに応じた礼儀正しい対応の指導	施策Ⅰ-1	・「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の生徒指導及び安全指導の項目評価 ・着用率の調査と分析	・生徒アンケートの結果では、「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣」の肯定的な回答が約96%と高い。本校の先輩から引き継がれた大切な伝統であるため、気持ちの良い挨拶がごく当たり前にできている。 ・いじめ防止対策が目に見える形での活動が十分実施できなかった。 ・今年度の1年生は、自転車乗用時のヘルメット着用を義務化した。2、3年生にもヘルメット着用を呼びかけたが着用率は上昇しなかった。	B	○挨拶は自発的にする伝統が根付いている。 ○悩みや不安、人間関係のずれ違いは、アンケートや教育相談以外でも明るみにできており、その都度、組織的に対応できている。 ▲ヘルメットの着用については、「先生に叱られる」「罰則がある」ではなく、自ら命を守る考え方が定着させる工夫が必要である。	B
	・いじめ防止対策基本方針の徹底と自殺防止の啓発	施策Ⅰ-3					
	・講話等による自転車通学のルール・マナーの徹底とヘルメット着用の励行	施策Ⅲ-19					
	・情報モラルの向上指導と薬物乱用防止講話の開催	施策Ⅲ-19					
進路指導	・積極的な情報提供と学年及び担任との連携を密にしたキャリアパスポートの作成	施策Ⅱ-13	・「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の進路指導の項目評価 ・インターンシップやオープンキャンパスへの参加状況 ・進路先内定率100%	・進路ガイダンスや説明会での感想をキャリアパスポートに綴り込み、活動を振り返られるようにした。 ・進路先の情報について比較検討させることを目的に、オープンキャンパス等への参加を2校以上とした。 ・小論文への対策を国語科と連携し、早期に取り組ませることとした。 ・保護者アンケートの結果では、肯定的な回答が多く、適切な情報提供はできていると考えられる。 ・就職希望者は全員内定を頂戴し、内定率は100%である。	B	▲進学する方法として、指定校入試を利用する傾向が強くなり、自分の目標に向かってチャレンジする生徒が減少してきている。 ▲指定校以外への入試については、年内入試で決定する傾向が強くなってきており、昨年度までと比較し、厳しい結果となった。入試への対策をさせる指導が必要である。 ▲就職試験では、1次募集で内定をもらえなかった生徒がいる。この傾向は続く可能性が高いため、生徒の希望先と企業が求める人材のミスマッチを少なくするため、丁寧に指導できる体制が必要である。 ○企業及び大学等の協力により、将来を見据えた進路を考える機会を準備できた。	B
	・進路指導室の利用を推進し、企業や上級学校に関する情報を自ら調べる力を育成	施策Ⅱ-13					
	・インターンシップの実施による望ましい職業観と勤労観の育成	施策Ⅱ-13					
	・オープンキャンパス等に積極的に参加させ、上級学校への理解と学習意欲の向上	施策Ⅱ-13					
その他	・各学科、各コースの目標を明示し、創意工夫を活かした魅力ある商業教育の推進と外部への積極的な情報発信	施策Ⅱ-10	・「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の家庭との連携及び学習指導や学校行事の項目評価 ・各種検定試験の合格率	・各学科コースが特徴を活かして創意工夫した課題研究を実施。外部との連携を推進した。 A組：岐阜女子短大や企業とのAI関連連携授業、B組：岐阜市魅力発信イベント、C組：企業PR動画の制作、ビジネスアイデア、商業達人カップ、D組：精華中学校への簿記出前授業、アントレプレナーシップ(鏡島地区活性化、企業と商品開発、喫茶店運営) ・企業や大学、自治体等と連携した授業を計画・実施することで、生徒が実社会と繋がる学びの体験ができるよう工夫している。講話や実習・協働活動を通じて、生徒は課題を自ら発見し、解決に向けて考え行動する主体的な学びを実現できたと評価している。	B	▲各学科、コースが特色を活かして外部連携を推進し、外部への情報発信についても実施しているが、反応や手ごたえを十分に把握できておらず、発信の目的や方法に課題が残った。 ○各種連携授業により学びを深めることができている。今後は振り返りや成果の言語化を充実させ、学習効果をより明確にする必要がある。 ○連携授業を推進する中で、社会人として求められる倫理観やビジネスマナーを実践的に学ばせることができ、生徒の意識や行動面に成長がみられた。 ▲各学科コース毎の目標を達成するため、ほぼ計画通り進めることができたが、今年度も資格取得率は伸び悩んだ。生徒の意識向上とともに、教員の授業内容・指導方法の改善が今後の課題である。	B
	・外部の教育力や地域連携を活用した主体的かつ対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践	施策Ⅱ-13					
	・外部の教育力や地域連携を活用し、将来の職業人として必要な倫理観やビジネスマナー、コミュニケーション能力の育成	施策Ⅱ-13					
	・各学科、各コースの到達目標である資格の確実な取得と高度な資格取得への挑戦	施策Ⅱ-14					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月9日 学校関係者評価 実施日：令和8年1月26日

・ICT機器を活用した学習指導に関する校内研修や、各教科での授業研究会等を充実させ、生徒が協働的かつ主体的に学ぶことができる授業改善【学】 ・ヘルメット着用については、今年度中に準備と着用を促すよう指導し、次年度は風紀委員会や生徒会と協力し、生徒目線でもお互いの交通安全意識を向上させる活動を実施【生】 ・いじめについては、年々、人間関係の構築が困難な生徒が増えている。トラブル後に自分で再構築することも困難な生徒が増加し、大人の手が必要になっている。きめ細やかな配慮が必要になっているため、教育相談や三者懇談の時間を十分確保しつつ丁寧な聴き取りを実施【生】 ・国語科や関係機関と連携した1年次からの小論文指導や教員向け面接指導・小論文指導研修の実施【進】 ・倫理観やビジネスマナー、豊かなコミュニケーション能力を身につけて社会で活躍できる人材育成を図るため、産学官の連携を強化したアントレプレナーシップ教育の実践【商】 ・各種検定試験の合格率向上を目指した授業の質向上と指導体制の充実、教育課程の検討や授業研究会の実施。単元テストや特編授業の充実。生徒の個に応じた学習支援や学習意欲を高めるための細やかな指導の実施【商】【学】	・ICTスキルが向上する反面、教員の熱意、丁寧さの評価が減少している。学習内容が難しくなるほど、教員には生徒に分かりやすい授業が求められる。 ・挨拶やマナー等を状況に応じて指導できていることは十分評価できる。一方で、自転車のヘルメット着用等で命の大切さを次世代を担う高校生に示してほしい。 ・進路指導について現在の取組について評価しつつも、さらに充実したサポートがあると生徒にとって大きな力になる。 ・高大連携は生徒にとって貴重な体験ができている。その結果として社会人としての考え方やビジネスマナー等の意識向上につながっている。さらに、将来を見据えての資格取得に対する意識を高める方策を期待する。 ・市岐商デパートは全員参加型で生徒が主体となって実践的に学べるのがよい。 ・学校と保護者の連携については、直接対話できる機会が少ないため、学校と家庭が相談しやすい環境が整うとよい。 ・地域の活性化に向けた高齢者サロンの企画・運営や、地元小中学校との連携を恒常的に進めてもらい、関係者も大変喜んでいる。今後もこの活動を継続してほしい。
---	---